

健康づくりの評価指標一覧

「第3次萩市保健計画」では、次のような目標をかかげて健康づくりに取り組んでいます。

ダイジェスト版

健康はぎ21 (第3次)

令和3年度～令和8年度計画
萩市保健計画

基本方針

市民が生涯を通じて 住み慣れた地域で
いつまでも 安心して暮らせる 健康づくり

健康寿命の
延伸

科学的根拠に基づいた
健康づくり

予防に重点をおいた
健康づくり

健康づくりを
とおした地域づくり

「健康はぎ21萩市保健計画(第3次)」は、各世代に応じた健康づくりの目標を設定し、市民一人ひとりの健康づくりを通して平均寿命及び健康寿命の延伸を目指すための計画です。

「妊娠・出産・子育て環境の充実」・「青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進」・「全ライフステージを通じた重要分野の推進」を基本目標とし、健康課題、対策、取組を掲げます。

評価項目	基準値 (平成30年～令和2年)	目標値 (令和3年～令和8年)	出典	
妊娠・出産・子育て環境の充実	HAGU相談件数	885件(令和元年度)	増やす ※1	
	1歳6か月児健康診査受診率	96.2%(平成30年度)	100% ※1	
	3歳児健康診査受診率	94.0%(平成30年度)	100% ※1	
青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進	健康寿命	男性:79.93歳(平成30年度) 女性:83.11歳	伸ばす ※2	
	脳血管疾患による介護保険認定割合(2号被保険者)	68.8%(令和元年度)	減らす ※3	
	栄養成分表示を参考にする人の割合(青年期～高齢期)	38.4%(令和2年度)	増やす ※4	
	日常生活で意識的に体を動かすように心がけている人(いつも・ときどき)	73.8%(令和2年度)	増やす ※4	
	週3回以上就寝前に夕食をとる人の割合	16.9%(令和元年度)	減らす ※5	
	特定健診受診率	28.4%(令和元年度)	伸ばす ※5	
	BMIが25.0以上の人(40歳以上)	男性:30.1%(令和元年度) 女性:21.1%	減らす ※5	
	糖尿病罹患率(50歳代)	7.2%(令和元年度)	減らす ※5	
	がん検診受診率 胃がん検診 3.1% 肺がん検診 4.7% 大腸がん検診 5.2% 子宮頸がん検診 9.8% 乳がん検診 9.5%	(令和元年度)	伸ばす ※6	
	全ライフステージを通じた重要分野の推進	自殺死亡率(人口10万人当たり)の平均	15.3(平成27年～令和元年の平均)	13.0以下(令和3年～令和8年の平均) ※7
		【歯科保健の推進】 妊婦歯科健診受診者の割合	48.5%(令和元年度)	伸ばす ※1
過去1年間に歯科健診受診(20歳以上)		57.1%(令和2年度)	伸ばす ※4	
【タバコ対策の推進】 成人の喫煙率		17.3%(令和2年度)	減らす ※4	

出典

- ※1 萩市健康増進課実績
- ※2 山口県健康増進課調査
- ※3 令和元年度介護保険第2号者特定疾病別認定状況
- ※4 萩市地域福祉・保健に関するアンケート調査
- ※5 萩市国民健康保険データベースシステム
- ※6 地域保健・健康増進事業報告
- ※7 地域における自殺の基礎資料(厚生労働省)



萩市保健部健康増進課

〒758-8555
萩市大字江向510番地
TEL 0838-26-0500
FAX 0838-25-9700
mail kenkou@city.hagi.lg.jp

令和4年3月発行



萩市
保健部健康増進課

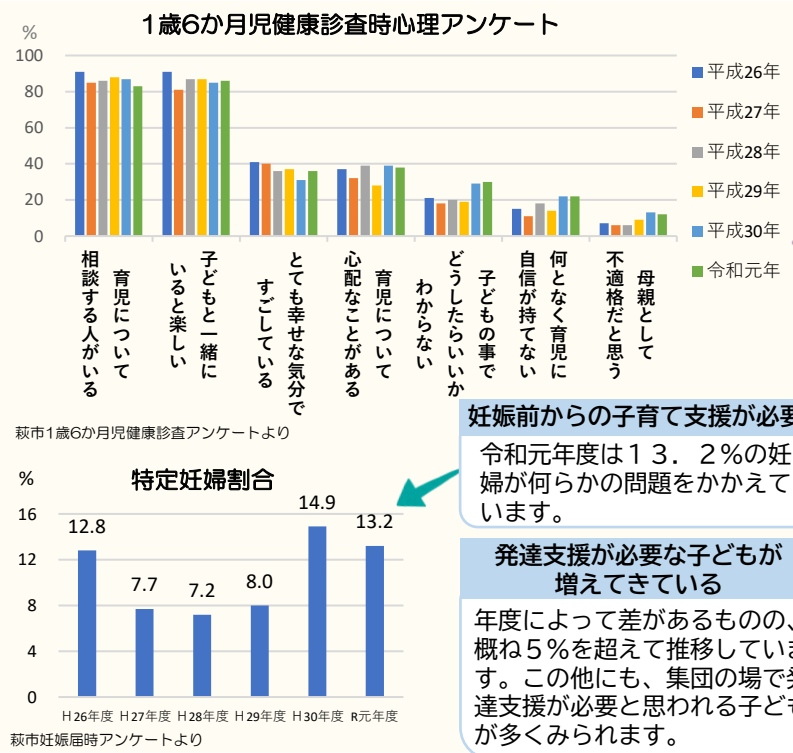
基本目標

萩市の現状

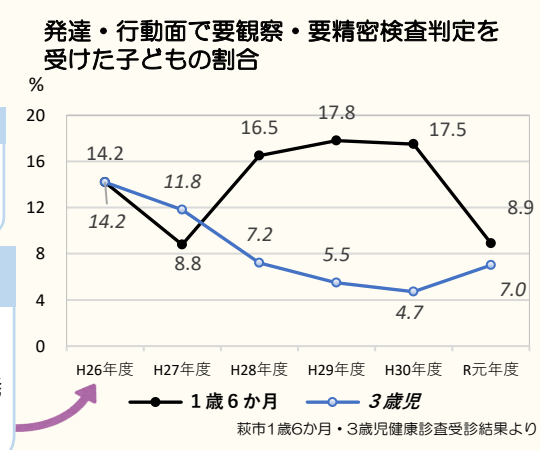
健康課題

市民の取り組み

妊娠・出産・子育て環境の充実



子育てに自信をもてない保護者が増加している
子育てに前向きな回答が年々減少し、子育てが上手く出来ないと感じている保護者が増加傾向にあります。



妊娠前からの子育て支援が必要
令和元年度は13.2%の妊婦が何らかの問題をかかえています。

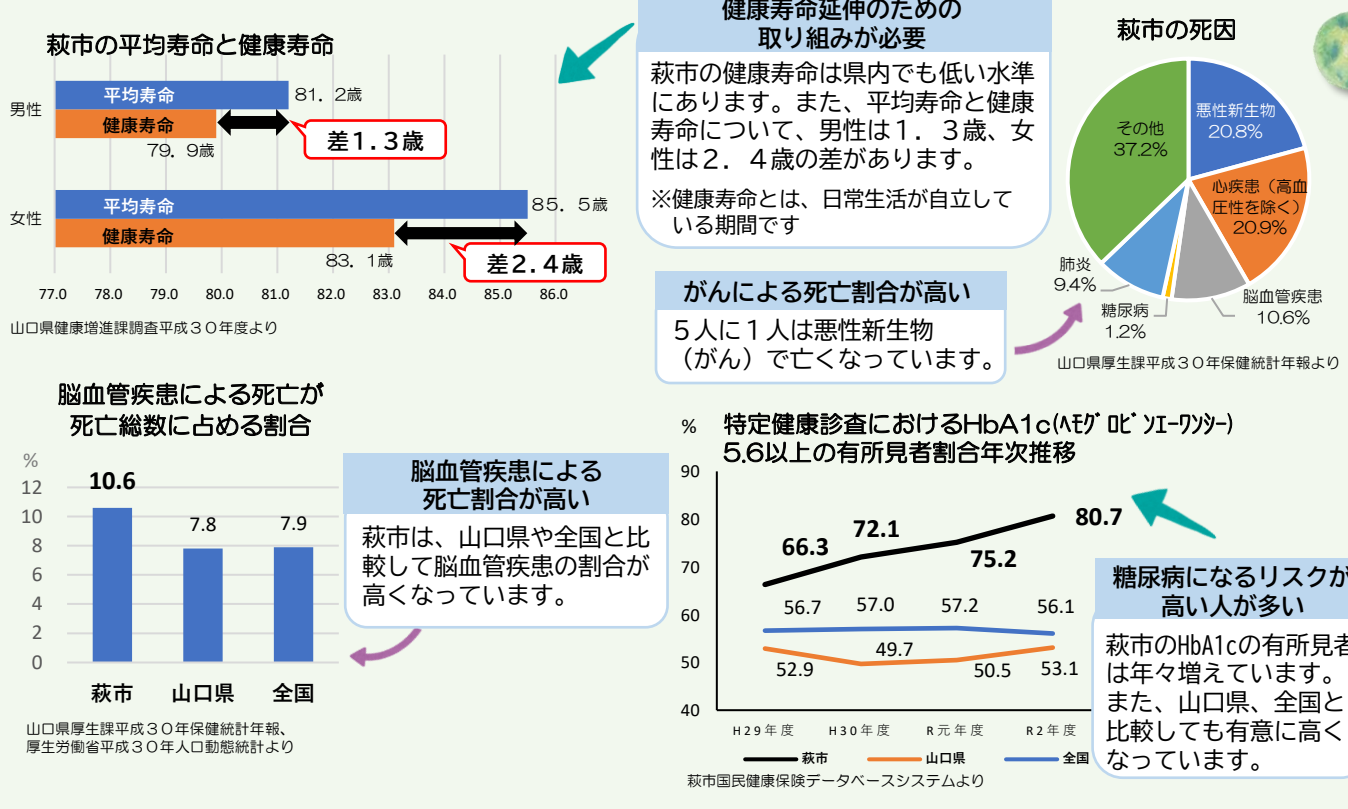
発達支援が必要な子どもが増えている
年度によって差があるものの、概ね5%を超えて推移しています。この他にも、集団の中で発達支援が必要と思われる子どもが多くみられます。

妊娠・出産・子育て環境の充実

課題
・子育てに自信をもてない保護者が増加している
・発達支援が必要な子どもが増えてきている
・妊娠前からの子育て支援が必要

課題解決の方向性
妊娠・出産・子育て環境の充実を図るために、思春期から子育て期におけるさまざまなニーズに対応する切れ目のない支援と、地域の関係機関との連携強化が必要です。

青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進



健康寿命延伸のための取り組みが必要
萩市の健康寿命は県内でも低い水準にあります。また、平均寿命と健康寿命について、男性は1.3歳、女性は2.4歳の差があります。
※健康寿命とは、日常生活が自立している期間です

がんによる死亡割合が高い
5人に1人は悪性新生物(がん)で亡くなっています。

青年期から高齢期に至るまでの健康の維持増進

課題
・健康寿命が県内でも低い水準にある
・脳血管疾患による死亡割合が高い
・介護認定(第2号被保険者※)を受ける原因の6割が脳血管疾患となっている
・糖尿病になるリスクが高い人が多い
・がんによる死亡割合が高い
・働き世代(40~50歳代)の6~7割が運動習慣がない

課題解決の方向性
健康寿命延伸のために、働き世代の青壮年期からの食事・運動習慣などの改善、生活習慣病予防への取組や、特定健診やがん検診等を受診しやすい環境整備が必要です。

1 子育てしやすい環境の整備

- 一人でも悩まず、保健師や子育て世代包括支援センターHAGU・保健推進員などに気軽に相談しよう
- 親子教室に参加したり、「母子アプリ はぎHAGU」の利用など、自分に合った子育て支援サービスを見つけよう

2 子どもの健やかな成長を促す地域づくり

- 乳幼児の健康診査を受け、子どもの発達を確認しよう
- 育児相談などに参加し、子どもの発達に合わせた関わりをしよう
- 困った時には専門職に相談しよう

3 豊かな母性・父性を育む支援

- 思春期講座や母子教室を通じて、正しい知識と自分の人生について考えよう
- 一人で悩まず専門職に相談しよう
- 自分の心身の状態に早めに気づき、周りの支援を活用しよう

1 生活習慣病の予防

- 高血圧予防は、まず減塩!**
- 調味料の量を減らそう
 - 加工食品の食べる頻度や量を減らそう
- 糖尿病予防は、食べ方がポイント!**
- 食べる糖質を選ぼう
 - 食べる順番は野菜からにしよう
 - 食べる時間と頻度は一定にしよう

2 がん検診・特定健康診査受診率の向上

- 定期的に健(検)診を受けて自分の健康状態を知ろう
- 健(検)診結果を健康づくりに役立てよう
- 特定保健指導や特定健康診査後の事後指導の教室を受けよう
- 運動、食事、治療について気になれば健康相談の機会を使ってみよう

3 健康づくり活動の支援

- 日常生活の中でこまめに体を動かそう
- やまぐち健幸アプリを活用して、1日の歩数をチェックしよう
- 「知っとこ・やっここチャンネル」を見て、健康づくりに取り組もう
- 運動する仲間をつくろう

4 重症化の遅延

- 治療を中断せず、適切に医療を受けましょう
- かかりつけ医を持ちましょう

全ライフステージを通じた重要分野の推進

こころの健康づくりの推進

自殺の原因には、さまざまな動機があります。全ライフステージに向けたこころの健康づくりを担う相談者を育成するなど、社会全体で自殺リスクを低減させる取組が必要です。

- 生きいきと自分らしく生きよう
- ひとりで悩まず、相談しよう
 - 誰もがこころの健康づくり見守り隊(養成講座を受講しよう)

歯科保健の推進

青年期から高齢期にわたって、歯科健診受診者は少なく、受診者においては何らかの所見を有する者が多く見られます。全てのライフステージを通して口腔ケアに取り組む必要があります。

- いつまでも自分の歯で噛み、楽しく食べよう
- かかりつけ歯科医を持とう
 - 定期的にお口のメンテナンスをしよう

タバコ対策の推進

喫煙は、がん、循環器疾患、COPD、糖尿病の主要なリスク要因です。健康寿命の延伸のために、「喫煙防止(未成年・妊産婦等)」「受動喫煙防止」「禁煙支援」の3つを柱とした取組の推進が必要です。

- 喫煙・受動喫煙を防止しよう
- 喫煙・受動喫煙の害を知り、防止に努めよう
 - 禁煙に関する個別支援を受けよう

感染症予防の推進

感染の発生時には地域へまん延する可能性があり、市民の健康を守るための迅速かつ確かな対応が求められます。また、市民一人ひとりの感染症予防の取組により、地域全体の予防を進めていく必要があります。

- 感染症を予防しよう
- 3密を避けよう
 - 手洗いしよう
 - マスクをつけよう
 - 予防接種を受けよう